

2021 国際理解講座①では、たくさんのご質問をありがとうございました。
いくつかにお答えいただきましたので、ご紹介します。

Q) 戦闘員訓練所およびヤズディの女の子が解放される際の手助けにつながる情報は、どのように入ってきたのでしょうか？

A) 監禁されている人はほぼ全員、まず監禁先にある電話を内緒で使うなどして、安全地域に避難している自分の家族か親戚と連絡を取ろうとします。その電話で、居場所が分かった親戚や家族は、ヤズディ救出に携わる専門チームへ連絡を取ります。
チームは IS 支配地域に多くの協力者を持っており、その協力者を使い、脱出させます。
他には、IS 支配地域に暮らす地元住民にかくまわれ、助けられたケースなどもあります。

参考記事

[映画「ヒトラーを欺いた黄色い星」と繋がる良心 命がけで IS 欺き「奴隷女性」助けたイスラム教徒がいた\(玉本英子\) - 個人 - Yahoo!ニュース](#)

Q) 売春で得られるお金が1人につき800円とわかりましたが、アフガニスタンで800円は生活できる金額でしょうか。売春だけで家族を支えられるのでしょうか。

A) アフガニスタンでは一日の所得が1ドルの人たちも少なくありません。ムルザルは一日に客を何人もとっていました。
なんとか家族を食べさせていけると話していました。

Q) イスラム教徒ではない男の子が過激な思想を信じていないが逆らわなければ殺されるから教官に従うと言っていましたが、イスラム教徒の兵士の中でも過激な思想に疑問を持つ人は多いのでしょうか。

A) IS 戦闘員たちと直接話しましたが、「IS は、おかしいと思った」と言う人は何人もいました。

しかし、誰ひとり、何らかの強い行動に移した人はいませんでした。

批判的なことを言えば、IS の刑務所に入れられたり、拷問を受けたりしたというのもあります。

IS に限らず、戦争になると多くが同調圧力に屈するからか、ブレーキをかけられなくなると感じました。

Q) 国内避難民として避難する人、しない人の差は何でしょうか。避難しないで留まる理由は何でしょうか。

A) 状況によって変わりますが、避難民みんなが「テント暮らしで、支援物資で生活」しているわけではありません。

多くは着の身着のまま逃げてきて、部屋や家を借りて住みます。

生活のため家財道具など最低限の生活必需品を買う必要があります。移動のための車やガソリンも必要です。

避難先で新しい仕事を探さなければなりません。国内でも民族や言語、文化が違う場合があります。

いつ自分の町に戻れるのか、戻れないか分かりません。

留まる人の多くは、経済的な理由と感じます。（家や故郷を失いたくないという理由で残る人もいますが）。

年配者の場合、環境の違う所、テントなどでの生活は体力的に無理と判断し、留まることを決めた人は少なくないです。

それが理由で、家族も残らざるを得ない場合が少なくありません。

もし自分自身が、そういう立場に立ったらどうするか、具体的に計算などしてみれば、避難民生活が、どれほど不安で過酷なものなのか、見えてくるように思います。

Q) 日本は難民の受け入れに積極的ではない印象ですが、それはなぜでしょうか？

A) 政府の方針があると思います。と同時に、国民が「難民」について知らない、もしくは誤解している面も大きいように感じます。